

毎日新聞介護賞受賞

介護の現場で顕著な活動をしている団体・個人を顕彰する「2008年毎日介護賞」(毎日新聞主催、厚生労働省・日本医師会・日本看護協会・ぼけ予防協会後援、アフラック協賛)で、ぬくもり福社会たんぽぽが特別賞を受賞いたしました。

今回の受賞は、毎日介護賞2団体、アフラック賞1団体、特別賞2団体、奨励賞1団体の計6団体でした。

今回の受賞理由は、たんぽぽが強く推進している「地域との共助」の一つに位置づけ、2001年から継続実施している地元飯能市立加治小学校とたんぽぽご利用者との幅広い交流が高く評価されたものであります



毎日介護賞 特別賞受賞たて
受賞式 於如水会館
平成20年11月6日

加治小学校との交流は、加治小学校6年生とたんぽぽのデイサービス(2事業所)・グループホームのご利用者との年間を通じての交流、そして5年生とは、たんぽぽ配食ご利用者とお手紙を通じての交流であります。

6年生との交流は、たんぽぽ年間行事のプログラムに取り入れ、延べ6日以上の活動を行い、5年生とは、年度当初、配食に係る勉強会を学校で開催し、配食についての理解を深めた後に、お手紙の交流(年、延べ6回)を行っています。

加治小学校では、これらの交流を総合学習の一環として捉え、力を入れています。

交流を通じ、たんぽぽご利用者は、生徒から元気を一杯いただいています。

例えば、交流会の一つであるハーモニカ発表会では、新しい曲にチャレンジし、演奏が終了した時の達成感、喜びを皆さんで味わうなど、或いは生徒との

会話の中から、生き生きとした表情を見せるなど。

一方、生徒は、福祉の現場で直接ご利用者に接し、貴重な人生経験等を学び、或いは、福祉車両・車イスを体験し、さらには、生徒達がグループ毎に考え、練習を重ねてきた「合唱、劇、マジック、紙芝居等」を披露し、また、ご利用者とゲームを楽しんでいます。

また、お手紙の交流では、自分の考えを文章にまとめ、相手に伝えることの大切さを学び、回数を重ねるごとに、しっかりとした文章に成長しているとのこと。

加治小学校との交流は、生徒にとっても、ご利用者にとっても、大きな学習成果を挙げ、地域との交流の輪が更に広がろうとしています。



加治小学校 6年生とご利用者との交流



配食勉強会で、お弁当を試食する5年生